

教育フォーラム「不登校を考える」

不登校・ひきこもりと地域に求められるもの

く子どもと歩む保護者たちの思いに寄り添って

【日時】2019年1月26日(土)午後2時～4時30分

【会場】ひかりプラザ (203・204号室)

【講師】広木 克行さん (神戸大学名誉教授)

【参加者】73名

(前回のつづき)このケースにも見られるように子どもに何か問題を見つけると、その原因を子どもに求め子どもを変えるように働き掛けようとする傾向が最近再び顕著になっているようです。HSCという新しい診断名もそのような意識の中で使われた可能性があると思われました。この妹さんの場合、もしもお兄ちゃんが元気に学校に行っていたらお母さんの様子も落ち着いていただろうし、その子は「私もお兄ちゃんみたいに休みたい」とは言わなかった可能性が高いからです。不登校をしているお兄ちゃんを見て私もちょっと休みたいと思う弟や妹は少なくありません。これは以前から多くのケースで見られてきたことで、特に過敏だからなどと言われず薬も処方されずに解決してきた例が沢山あるのです。でも先生からも医者からもHSCという診断名を聞かされたのですから、お母さんの苦しみはどれほどだったでしょう。「お兄ちゃんばかりでなくて妹も」と思った瞬間に、「このお母さんに限らず母親というものは私の子育てがダメな子育てだったと烙印を押されたように感じてものすごいシヨ

ックを受けるものです。だから相談に来たときにそのお母さんは深刻な形相で涙ながらに必死で話してくれました。

自分の子育てに問題がある、そう考えた母親たちの中には子育てを自分に押し付ける夫に問題があると考えたり、自分の生い立ちに問題がありさらに自分の家族に問題があったと考えたりして、今の自分から逃げたくなるような心境にさえなる人がいます。自分の子ども時代にまで遡って家族を責めずにはいられなくなるのです。そんな気持ちになっているとき、母親の気持ちを読みとろうとする相談員ではなくて「HSCですね。これは薬が必要ですね」というふうに応じられると、親の中には一瞬自分の問題ではなくて子どもの障がいの問題だと言われたようでちょっと気持ちが軽くなったと言つ人もいます。しかしそれは初めて告げられた子どもの障がいはどう向き合うかという新しい大きな問題に気持ちが集中する訳ですから、そこから生じる親と子のズレが新たな違和感を子どもに与え、それ自体が新しい困難の原因になることも少なくないのです。

こういう意味で本来子どもたちが登校渋りや不登校という状態になって訴えている場合には、子どもの苦しみをしっかりと見据えることが大切なのですが、そこに目が向かないことから派生するさまざまな副作用的な問題に目を奪われて、問題を一層複雑にしていることに気づかない人が非常に多いですし、そのケースが増えていると私は感じています。

家庭に助けを求めた子どもたち、それが不登校そこでもいままでの話を踏まえて次にお話したのは、子どもたちが不登校になることには家庭に助けを求めてくれたという意味があることです。もしも学校の中に何らかの逃げ場があれば、

学校の中で助けを求めてくれるかもしれないけど、残念だけど今学校の中には逃げ場がない。それでもそういう子どもたちも安心できる逃げ場をどこに作るかということを課題にして放送室や保健室や相談教室を逃げ場にする、そんなことを考えて実践している先生たちが多くはないです。すがらっしゃいます。私は、そんな先生たちは特筆すべき理解者であり、実践家だと思っています。でも押しなべていうと残念ながらそういう実践は今日の学校現場では歓迎されていないようです。それで子どもたちは家庭に逃げ場を求めるしかないわけです。なぜなら家庭と学校以外には社会の何処を見渡しても逃げ場が無いからです。そうして家庭に助けを求めたときに子どもたちはどんな症状を示し、どんな状態になるのか。今までの経験を分析するとそれには大体3つの状態がありますが、私はそれを3つのシグナルと呼んでいます。

子どもたちに表れる3つのシグナル

一つ目は、症状として表れるシグナルです。まるで病的のような症状として表すのです。例えば不登校の多くの子どもたちは最初に腹痛や頭痛を訴えます。経験的には小学校3年生以下の子どもたちは自分の思いを言語化できるほど言語能力が成熟していないということがあるのでしょうか、その子どもたちは腹痛を訴えるケースが少なくありません。だから親たちは内科や小児科に連れて行って何か異常がないかと診て貰うのですが、お医者さんは内科的には問題はないので何か精神的なものでしょうかと助言してくださる。そこで親たちはハタと困るわけです。心療内科なのかそれとも精神科かなどと考えて、そこから深い葛藤が始まって相談にいられるわけです。

国分寺市不登校を考える親の会(さくら草の会)

通信248号 2025 10月27発行



今回の定例会は11月22日です。定例会は第四土曜日2時から4時。会場はひかりプラザの予定です。地域を問わずどなたでもご参加ください。参加無料、予約も連絡も不要です。

さくら草の会よりおしらせ 7, 8, 9月の定例会は、空調故障でひかりプラザが使えなくなり、7, 8, 9月は会場を変更しました。今後も変更する可能性もありますので、会場についてはお問合せ下さい。

カット (キンモクセイ)

事務局 石井ひろ子 042-502-7558（留守電にメッセージを入れてください。おりかえします。）さくら草の会のホームページも記入してください。

<http://inomck.wixsite.com/sakurasounokai>